

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.239 2022.3.1

新松本市立博物館 建設中!



建設地南から
西向きに撮影



▶ 2020.05



▶ 2022.01



▶ 2021.04



▶ 2021.07



▶ 2021.09



新しい博物館の本格的な建設工事が始まってから約2年。現場には柱が立ち、屋根が組み立てられるなど建物の全容が少しずつ見えてきました。松本市立博物館ホームページでは、現地の様子や開館に向けた展示制作などを紹介しています。ぜひご覧ください。



もくじ

- 誌上博物館 ◇ 春の里山に幻の妖精を探して……………2
- 博物館TOPICS ◇ 春の訪れを告げるフクジュソウについて……………3
- 博物館のノートから ◇ 休館通信～新博物館への道～……………3
- ガイドコーナー ◇ はんてんぼく……………4

掲載されている各種事業は、新型コロナウイルスの感染状況などによって急遽中止となる場合がございます。開催の可否などについては、各館にお問い合わせください。

春の里山に幻の妖精を探して

1 春の妖精

「スプリング・エフェメラル」と呼ばれる生物たちがいます。これは環境に応じて短い期間のみ姿を見せる「Ephemeral Plant (短命な、一時的な植物)」のうち、春にのみ花を咲かせる草花を指します。フクジュソウやカタクリはその代表です。日本のような温帯気候のやや寒い地域には落葉広葉樹が広く分布しており、春先の木々が葉をつける前の林床は日光が指すため、光合成を行える環境になります。スプリング・エフェメラルは、この期間を利用して繁殖を行うというたかな生存戦略により春にのみ姿を現します。結果として人々の目からは、春の僅かな時に姿を見せ儂く散る花々と写り、日本では誰が言い出したか、「春の妖精」とも呼ばれるようになりました。

そこから転じて、春にのみ姿を見せる昆虫、とりわけチョウについても同様に呼ぶことがあります。確かに、まだ彩の少ない季節に花を求めて舞う可憐な姿は、まさしく「妖精」のようです。今回のタイトルにある「幻の妖精」もそんな可憐なチョウ……ではなく、アブの仲間です。

2 偶然の出会い

ピロウドツリアブ (学名:*Bombylius major*) は、ホバリング(空中で静止する飛び方)する姿が上から吊られている



吸蜜しようとするピロウドツリアブ

ように見えることから「ツリアブ」と呼ばれるアブの1種で、毛に覆われた体と長い口吻が特徴です。このアブも春にしか姿を現さない昆虫で、里山では非常によく見られます。花蜜を吸おうとホバリングする姿を上手く写真に収めるのは、春の昆虫撮影の楽しみの1つです。

2020年5月3日、里山辺に写真撮影に出かけた折、たくさんのピロウドツリアブの中に1匹の少し様子の違う個体を見つけました。



里山辺で撮影したハクバツリアブ

左の写真がその個体で、ピロウドツリアブより一回り小さい体に白い毛が目立ち、翅には斑模様があります。

実はこのアブは、日本ではまだ数例しか報告のないハクバツリアブ (学名:*Bombylius pygmaeus*) だったのです。

3 ハクバツリアブとその記録

ハクバツリアブは近年になって日本での生息が確認された昆虫で、山と自然博物館とは多少の縁があります。2010年に白馬村で発見され、第一報がなされました。翌2011年、当館の企画展「松本の多様な昆虫」において展示された故・清澤晴親氏のコレクションの中に、ハクバツリアブがいることを来館者が見つけ、調査が行われました。この個体は1952年5月に保福寺峠で採集されたものでした。過去の記録であり、白馬村以外の記録であることから、ハクバツリアブが近年になって日本に入ってきた外来種ではなく、在来種であることの根拠の1つとなりました。過去のコレクションとそれを博物館が保管していくことの意義が再確認できるような事例といえます。

特徴的な外見ながら近年まで存在が知られず、それ以降も僅かな報告しかないので、本記事のタイトルは「幻」としました。今回の里山辺での撮影も貴重な記録として、「松本むしの会」の会誌にも発表いたしました。



清沢コレクション中のハクバツリアブ(写真は実寸大)

4 幻の妖精を探して

継続的な調査の必要性を感じ、翌2021年の4月から5月にかけて、現地に足を運びましたが、残念ながら発見できませんでした。そこで、今後の参考とするために、2011年当時の館長で調査に協力した丸山潔氏にお願いして、白馬村の生息地に案内してもらいました。そこは5月半ばにも関わらずまだ寒く木々の葉もまばらであり、私が見つけた場所・気候とは条件があまりにも違っていたことは、興味深いところです。

今年も3月に入り、妖精たちを観察できる時期になりました。はたして再び幻に出会えるでしょうか。

(山と自然博物館 学芸員/内川潤季)

参考文献

- ・紺野 剛, 濱路 久徳, 田悟 敏弘, 2014. 「ツリアブ科ノート」ハクバツリアブ(和名新称)の記録『はなあぶ』37:51-58

春の訪れを告げるフクジュソウについて

冬の寒さも次第に落ち着き、春が待ち遠しい季節となりました。今回は、春の訪れを告げるフクジュソウについて紹介いたします。

化石で有名な四賀ですが、当地区はフクジュソウの名所としても知られています。特に有名な名所は、「赤怒田^{あかぬた}のフクジュソウ群生地」です。約2ヘクタールの北向き斜面一面に黄金色の花が咲き誇り、毎年多くの観光客が訪れます。例年の見ごろは、2月下旬～3月中旬となっております。

フクジュソウは春を告げる可愛らしい植物で、1月1日の誕生花でもあり、別名元日草^{がんじつそう}と呼ばれています。また、福寿草という和名には、古くから新春を祝福する意味があるとされ、たいへん縁起の良い植物として栽培されてきました。フクジュソウの花は日光が当たると開くので、晴れの日や日が出ている時間帯に見るのがおすすめです。

日本では、フクジュソウ、ミチノクフクジュソウ、キタミフクジュソウ、シコクフクジュソウの4種類を総称して、フクジュソウと呼ぶことが多いです。

「赤怒田のフクジュソウ群生地」は、四賀化石館から車で約5分の場所にありますので、四賀化石館にお越しの際は、足を運んでみてはいかがでしょうか。

(松本市四賀化石館 学芸員 / 小林駿)



休館通信 ～新博物館への道～

vol.6

よみがえる蒸気ポンプの輝き

閉鎖中の常設展示室を利用して、蒸気ポンプの補修を行いました。蒸気ポンプは、大正2年(1913)に大火が頻発する松本の市街地に配備された消防ポンプです。長い間、露出展示されていたため塗装の剥落や金属部に錆が発生していましたが、今回の補修によって、茶色だった真鍮や銅が本来の鮮やかな光り輝く色によみがえりました。



補修前の蒸気ポンプ



補修した蒸気ポンプ

た。想像以上の輝きに驚くとともに、これまでの劣化した状態では、この資料の本当の価値や見どころを伝えられなかったのではと感じました。

作業を経て約100年前の人々が目にした姿に戻りました。大火に悩まされた当時の人々は、光り輝く蒸気ポンプがすさまじい勢いで放水する姿を見て、暮らしへの希望と安心を感じたに違いありません。だからこそ、使われなくなっても大切に保管され、博物館に寄贈されたのでしょうか。もちろん、新博物館の常設展示室でも展示予定です。全国に数点しかない貴重な資料としてだけでなく、そこに込められた市民の防災への願いも感じていただけたと思います。ぜひお楽しみに！

(松本市立博物館 学芸員 / 千賀康孝)

展示スケジュール

詳細はホームページへ! <https://www.matsu-haku.com/>

館名称	3月	4月	5月	6月
松本民芸館	■工芸の5月参加企画「ガラスの美」 3/15(水)～9/11(日)			
松本市はかり資料館	■季節展示「押絵雛」 3/2(水)～4/3(日)			
窪田空穂記念館	■「松本の子どもの短歌・2021」作品展 3/12(土)～4/17(日)			
重要文化財馬場家住宅	■「古民家を彩る押絵雛—ひなまつり」 3/2(水)～4/3(日)		■「古民家を彩る押絵雛—端午の節句」 4/23(土)～6/5(日)	
松本市時計博物館	■時の記念日企画展「古時計の世界」 5/21(土)～6/19(日)			

※料金は通常観覧料 ※月曜休館(休日の場合は翌平日)

松本民芸館から

☎0263-33-1569

緑陰 「用の美」市

竹細工・やきもの・小木工など信州の伝統を受け継いだ職人たちの作品を展示販売します。

日時 5月28日(土)～5月29日(日) 午前9時～午後5時
(29日は午後4時まで)

会場 松本民芸館 中庭

料金 無料(ただし、館内を観覧する場合は通常観覧料)

重文馬場家住宅から

☎0263-85-5070

馬場家文書を読む

馬場家に残る古文書を読み解く連続講座です。古文書に記された内容や当時の時代背景を解説します。

日時 第1回:4月16日(土) 午前9時30分～11時30分
以後10月まで各月1回の全7回を予定

会場 馬場家住宅主屋

料金 各回500円

定員 10人

講師 太田秀保氏/信濃史学会会員

その他 連続講座のため、初回から継続した参加が必要です。詳細な日程等につきましては、馬場家ホームページもしくは電話にてご確認ください。

申込み 3月19日(土)午前9時から電話で馬場家住宅へ

山と自然博物館から

☎0263-38-0012

春の自然観察会

アルプス公園を歩きながら、草花をはじめ、春に見られる生きものを観察します。

日時 4月16日(土) 午前9時30分～11時30分

会場 アルプス公園内(集合:森の入口広場)

料金 無料

定員 15人

対象 小学3年生以上の子どもと保護者・大人一般

講師 山と自然博物館職員

持ち物 野外を歩きやすい服装、筆記用具

申込み 4月6日(水)午前9時から電話で山と自然博物館へ

初夏の野鳥観察会

公園内を歩きながら夏鳥などを観察します。

日時 5月14日(土) 午前9時～11時(予定)

会場 アルプス公園内(集合:山と自然博物館)

料金 無料

定員 15人

対象 小学3年生以上の子どもと保護者・大人一般

講師 丸山隆氏/元信州野鳥の会会長

持ち物 野外を歩きやすい服装、筆記用具、双眼鏡(あれば)

申込み 5月6日(金)午前9時から電話で山と自然博物館へ

お知らせ

『あなたと博物館』刊行スケジュール変更のお知らせ

『あなたと博物館』は、これまで年6回発行してきたところを、令和4年度から年4回発行に変更いたします。発行月は6月、9月、12月、3月を予定しております。今まで以上に充実した内容をお届けできるよう努めて参ります。

今後とも『あなたと博物館』をよろしくお願いいたします。

あとがき

馬場家住宅に来館された方から「冬は寒いですか?」と聞かれることがあります。1月下旬の朝、屋内の温度計を見てみると、なんと氷点下4度! いろいろや火鉢で寒さを乗り越えていたかつての暮らしに思いを馳せながら、春の訪れを一層待ち遠しく感じています。

(馬場家住宅 宮下慶祐)

あなたと博物館 No.239

発行年月日/令和4年3月1日

編集・発行/松本市立博物館

〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133

URL: <https://www.matsu-haku.com/>

e-mail: mcmuse@city.matsumoto.lg.jp



印刷 川越印刷株式会社